



キャンパス那覇

キャンパスは1997年に設立。「介護をしている家族を休ませてあげたい」と、家事や通院の手伝い・見守りなど、医師の指示書で動く訪問看護ではできない支援に当たる。県内では2023年、久米島にできた。

介護／家事／通院手伝い／見守り 看護師ら在宅ケア

有償ボランティアとして活動する看護師の拠点となる「キャンパス那覇」が2月2日に発足する。全国訪問ボランティアナースの会「CANUS(キャンパス)」の174番目の拠点。介護や家事を手伝うとともに、住民、医療・福祉従事者らと連携し、在宅の高齢者や障がい者を支えるケアの輪を広げる。

介護／家事／通院手伝い／見守り

来月発足、潜在ナース参加募る

キャンパス那覇の発足に向けて準備する山内理恵さん(前列右端)らスタッフ22日、那覇市久米

「医療に携わっていない潜在看護師らの参加を募る。代表の山内理恵さんは精神科での勤務経験があり「支援の枠組みがあれば、住み慣れた地域に戻れる高齢者がいる。住民の声を聞き、ニーズに基づいた仕組みを築きたい」と話す。地域との連携を目標とし「みんなが役割を持つ居場所をつくり、健康づくりにつなげたい」と展望を語る。沖縄本島を活動エリアとし、利用料は1時間当たり一律1800円(交通費別)。支援内容など相談に応じる。キャンパス那覇は電話098(860)8384

朝刊 2025/01/27(月)

沖縄タイムス 2025/1/27 (月) 社会面 (20面)



地域の「困った」 看護師ら手助け

有償ボランティアで介護や看護サービスを提供する看護師らの団体「キャンパス那覇」が2月2日、那覇市内に発足する。県内でも超高齢社会が進む中、介護や家事、通院や買い物支援など、地域の「困った」を支える新たな訪問看護を目指す。山内理恵代表(40)は「高齢者が住み慣れた場所で暮らせるよう、地域の懸け橋になりたい」と意気込む。(社会部・下里潤)

ボランティア団体来月発足

キャンパスは1997年に設立された訪問看護ボランティアの会。本部は神奈川県川原にあり、全国173カ所それぞれが「できること」に取り組んでいる。県内では久米島にも拠点があるが、本島内での活動は初めてとなる。

高齢者の買い物や通院、旅行など外出支援の他、介護や家事手伝い、話し相手など、ニーズに応じて対応する。重度障がい児の学校行事の付き添いや、家族に代わって一時的に介護する「レスパイトケア」も行う。

看護師ボランティア団体「キャンパス那覇」の設立に向けて意気込む山内理恵代表(前列)ら22日、那覇市内

高齢者の外出・障がい児一時介護

設立のきっかけは山内代表が看護師として働く中で、交通手段がなく困り果てた高齢者や、身内の介護で疲れ切った家族を見てきたことだ。介護保険で使えるサービスは限りがあるため、さらなる支援の必要性を感じていた。

メンバーは看護師の他、心理士や理学療法士など計8人。「今、やらないと超高齢社会は乗り越えられない」と、所属する「沖縄ウエルビーイング訪問看護ステーション」の仲間と一念発起した。

山内代表は「看護や介護の人材が不足する中、今後は地域の人の支え合いが重要になる」と強調。健康相談会なども開催し、「街の保健室」として気軽に立ち寄れる居場所を目指す。

料金は一律1時間1800円(交通費は別途必要)。通常の訪問看護の料金と比べれば5分の1以下で、「もうけはゼロ」。それでも「将来的には災害派遣にも取り組みたい」と意欲を示した。

2月2日午後1時から、那覇市の県男女共同参画センター1階にあるで発会式と記念講演がある。入場無料。申し込みはQRコードから。問い合わせは同団体、

電話098(860)8384。

